

石西礁湖自然再生協議会委員各位

陸域負荷対策ワーキンググループの設立について (提案)

サンゴ礁生態系に対する栄養塩の影響は未解明な部分があるものの、まずは負荷源や海域への流入といった挙動の解明を進めることが重要である。これまでの学術調査部会等において、蓄積型栄養塩を指標とする栄養塩分布の把握と、地下水を含む新たな水文モデルによる解析を組み合わせ、陸域負荷 (栄養塩) の挙動を明らかにする方針が定められた。

本ワーキンググループでは、行動計画 2019-2023 の取組分野 1-②、③、⑤、2-①、⑤、3-⑤に対応して活動する。

<特定の検討事項>

- ・より効果的に石西礁湖全体の栄養塩分布状況を推定する調査計画
- ・地下水を含む栄養塩供給メカニズムを把握するためのモデル作成方針 (既往モデルや開発中のモデルについての情報共有と方針検討)
- ・海域における栄養塩の影響濃度解明のための調査計画
- ・栄養塩の管理方針
- ・重点的に対策すべき事項についてどのように情報発信するか
- ・栄養塩対策について具体的な行動につながる主体別の具体的基準や削減目標

<発起人>

北里大学	安元 剛
琉球大学	安元 純
	中村 崇
東京工業大学	中村 隆志